

近現代史(002) ウィーン体制

1-3.ウィーン体制

問1【正文選択】ウィーン議定書

①フランスでは**オルレアン朝**が正統の王朝と認められた。

※1. ウィーン議定書では復古王政[1. ブルボン朝]が復活し、[2. ルイ18世]が即位。

※2. オルレアン朝は1830年[3. 七月革命]で成立した王朝。復古王政ブルボン朝のシャルル10世の反動的な政治に対し、3日間の市街戦に勝利し王をイギリスに亡命させた。立憲君主派と共和派が対立したため、妥協として自由主義者として知られたオルレアン公[4. ルイ=フィリップ]が即位した。

②ポーランドは実質**プロイセン**の支配下に入った。

※1. プロイセンではなく[5. ロシア]。露皇帝が[6. ポーランド立憲王国]の王を兼ね同君連合。

※2. プロイセンは[7. ラインラント](ライン川下流：ドイツ産業革命の中心)を獲得。

③イギリスは**フランス**からケープ植民地を獲得した。

※1. フランスではなく[8. オランダ]。イギリスはオランダからケープ植民地と[9. スリランカ]を獲得し、1800年にナポレオンから奪った[10. マルタ島]の領有を認められた。

※2. オランダはケープ植民地とスリランカの代わりとしてオーストリアから[11. 南ネーデルラント]を獲得。

④オーストリアは新たに形成されたドイツ連邦の盟主となった。

※1. ウィーン体制では[12. 神聖ローマ帝国]は復活しなかった。

※2. 35領邦と4自由市からなるドイツ連邦が成立し、オーストリアはその盟主となる。

※3. 普墺戦争を契機にプロイセンを中心として形成されたのが[13. 北ドイツ連邦]。

※4. 普仏戦争を契機にプロイセンを中心として形成されたのが[14. ドイツ帝国]。

問2【誤文選択】ウィーン体制下での各地の動き

① イギリスの第1回選挙法改正では、産業資本家に参政権が拡大した。

【イギリス選挙法改正】

第1次	1832	グレー	ホイッグ	[15. <u>腐敗選挙区</u>]廃止、産業資本家に参政権
第2次	1867	ダービー	保守	[16. <u>都市労働者</u>]に参政権
第3次	1884	17. <u>グラッドストーン</u>	自由	農業・鉱山労働者に参政権
第4次	1918	18. <u>ロイド=ジョージ</u>	自由	21歳以上男子、30歳以上女子に普通選挙権
第5次	1928	19. <u>ボールド=ウィン</u>	保守	21歳以上の男女に普通選挙権
国民代表法	1969	<u>ウィルソン</u>	労働	有権者年齢を[20. <u>18</u>]歳に引き下げ

②フランス二月革命後の臨時政府には、社会主義者の**サン=シモン**が入閣した。

※1. サン=シモンではなく、[21. ルイ=ブラン]。ルイ=ブランは二月革命で活躍し、臨時政府に入閣して労働委員会委員長となった。[22. 国立作業場]の設置など社会主義政策を推進したが、四月選挙で落選し、[23. 六月暴動]後イギリスに亡命した。

※2. [24. サン=シモン]…フランス革命の激動を生き、[25. 合理的に経済が統制された搾取のない産業社会の創設]を主張した。王侯貴族や僧侶が支配する旧社会を批判し、資本家や科学者や労働者などの産業者が自主的に管理・支配する社会が、人類を解放すると考えた。

③ロシアでは、デカブリストによる蜂起を新皇帝ニコライ 1 世が弾圧した。

※ 1. デカブリストの乱

・1825 年 [26. アレクサンドル 1 世] 死去と新皇帝ニコライ 1 世即位という機会を捉え、ナポレオン戦争で西
欧文明に触れた青年将校らがロシアの後進性を痛感し [27. 憲法制定] を目標として乱を起こす。

※ 2. ニコライ 1 世

・デカブリストの乱を鎮圧し、専制政治を強行。対外的にはギリシア独立戦争・第二次エジプト＝トルコ戦争で南
下政策を進めるが、第二次エジプト＝トルコ戦争後で [28. ウンキヤル＝スケレッシ条約] を破棄され失敗
する。 [29. クリミア戦争] を始めるが戦争のさなか死亡した。

④ベルギーはオランダからの独立を達成したのちに永世中立国となった。

☆ベルギーの歴史

- ・ 1555 年まで [30. カール 5 世] のハプスブルク帝国が領有
- ・ 1556 年 カール 5 世が退位して [31. スペイン] =ハプスブルク家領となり [32. フェリペ 2 世]
が領有。フェリペ 2 世はカトリック政策を展開。新教徒が多いネーデルラントは不満が蓄積。
- ・ 1568 [33. オランダ独立戦争] →北部はユトレヒト同盟を結んで独立達成するが、南部は脱落
- ・ 1701～1713 スペイン継承戦争→西がブルボン家になったので南ネーデルラントは [34. ラシュタット条約] で奥へ
- ・ 1815 ウィーン会議→奥は蘭に [35. 南ネーデルラント] を割譲し代償としてロバールデアとヴェネチアを獲得
- ・ 1830 [36. 七月革命] でオランダから南ネーデルラントが [37. ベルギー] として独立。

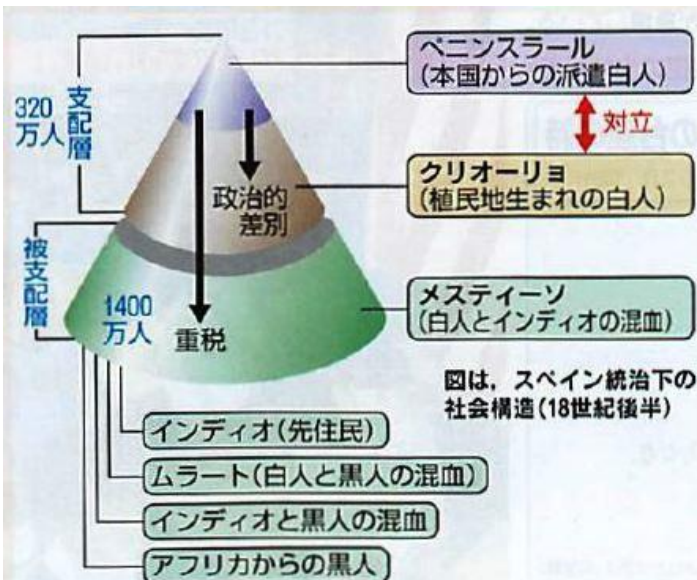
問 3. 【正文選択】ラテン＝アメリカの独立

①ハイチのフランスからの独立がその先駆けとされている。

※ 1. 「黒いジャコバン」と称された [38. トゥサン＝ルーヴェルチュール] が指導者。

※ 2. フランス革命の影響で黒人奴隷が反乱。1804 年に独立、 [39. 世界最初の黒人共和国] となった。

②クリオーリョと呼ばれる ヨーロッパ生まれの白人が独立の主体となった。



※ 1. クリオーリョは [40. 現地で生まれた] 白人。地
主階級。

※ 2. ヨーロッパ生まれの白人は
 [41. ペニスラール] と呼ばれる。

・蔑称： [42. ガピチュネス]

※ 3. 白人×先住民 = [43. メスチソ]

白人×黒人 = [44. ムラート]

先住民×黒人 = [45. サンボ]

③オーストリアの宰相メッテルニヒは 独立を援助した。

※ メッテルニヒは [46. 神聖同盟] を主導し、ラテン＝アメリカの独立に干渉しようとした。

④アメリカ合衆国モンローはモンロー教書を発表し、 独立を牽制した。

※モンロー主義は [47. ヨーロッパとアメリカの相互不干渉] を唱えるものであり、メッテルニヒの干渉を牽制。